

当院でバルーン大動脈弁形成術を受けられた患者様およびご家族の皆様へ

臨床データ研究使用に関するお願い

山陰労災病院循環器科では下記の臨床研究を行っております。この研究はこれまでの治療のカルテ情報から得られた研究データをまとめるものであり、結果は医学雑誌に投稿する予定のものです。この案内をお読みになり、ご自身がこの研究の対象者に該当すると思われる方で、ご質問がある場合、あるいはこの研究に「自分の情報を使用して欲しくない」と希望される場合には、ご遠慮なく下記の担当者までご連絡下さい。但し、既に解析を終了している場合や対応表が廃棄されている場合には研究データから貴方の情報を削除できない場合がありますのでご了承をお願い致します。

尚、本研究の結果は医学雑誌に投稿する予定です。

【対象となる患者様】

2016年3月から2020年3月までの間に重症大動脈弁狭窄症による症状で入院され、バルーン大動脈弁形成術を受けられた方。

【研究課題名】

有症候性の重症大動脈弁狭窄症の長期予後に及ぼすバルーン大動脈弁形成術の効果について。

【研究代表者】

山陰労災病院 院長特別補佐・循環器科 遠藤 哲

【研究の目的】

バルーン大動脈弁形成術が予後に及ぼす効果について検討すること。

【利用する診療情報】

年齢、性、身長、体重、症状、併存疾患、認知機能、移動能力、療養先、血液検査、心エコー検査、治療の合併症、退院後の生死および再入院の有無

【外部機関との研究データの授受】

一切ありません

【対象者への配慮および個人情報の取り扱い】

本研究は病院情報システムによる後向き研究であり、研究対象者に直接もたらされる利益・不利益はありません。また、氏名、住所などの個人を特定出来る情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌で公表する際

には個人が特定出来ない形で使用します。

【利益相反】

本研究は過去のデータを使用するもので特定の企業・団体などからの支援を受けて行われるものではなく、利益相反はありません。

【倫理的問題】

本研究は山陰労災病院倫理審査委員会で審査され、承認を受けて行われるものです。

【研究期間】

研究認可日より 2021 年 3 月 31 日まで。

【個人情報の取り扱い】

氏名、住所などの個人を特定出来る情報につきましては厳重に管理を行い、学会や学術雑誌で公表する際には個人が特定出来ない形で使用します。